本郷小学校「知の魂を大きくする」授業モデル

「誰もが学ぶ喜びを感じる主体的・対話的な学の創造」

～ユニバーサルデザインを基軸とした論理的思考力・コミュニケーション能力育成のための授業改善～

	学習の流れとポイント
問題提示	**問題を把握し，解決のための情報を見つけさせるための活動** Ｔ：「今日の問題です。」 【ねらう効果】 ・児童の興味を喚起し，学習へ向おうとする意欲を高める 【問題提示の方法】 ａ：黒板に書く。 ｂ：予め書いていたものを貼る。 ｃ：教科書を読ませる。 【問題提示の工夫】 ａ：「算数科における１０の仕掛け」を活用する。 ｂ：さし絵，図，表，グラフなどを時間差で提示する。 【指導の留意点】 ・本時の問題をすぐに提示する。（前時の復習をしない） ・問題文をノートに書く。(指示がなくても素早く書く) ・問題文を読む。(早く書いた者から何度も読む)
気づきの交流	**解決への見通しを立てさせるための情報を取り出す活動** Ｔ：「気づきを発表(交流)しましょう。」 【ねらう効果】 ・自発的な情報読解力・分析力の向上 ・一問一答授業から学び合いの授業展開への脱却 【指導のポイント】 ・児童の発言を受容的な態度と共感的理解で受け止める ・教師はいちいち児童の発言を反復しない ・児童が前の児童につなげて発言させる ・解決のための情報からそれていった場合，「前の時間に習ったところとどこが違うのかな？」「どんな情報が分かれば解決できそうかな？」等問いかけをする 【指導の留意点】 ・問題文にアンダーライン等を引かせない。（引いた以外の情報が出にくい） ・挙手が少なかった場合，ペアトークを導入 ・有効な気づきがでないときは，教師が手本を見せる
解決の見通し立て	Ｔ：「解決への見通しを立ててみましょう。」 【ねらう効果】 ・「みんなができる」学習意識を持たせ協働的な学び方を身につけさせる 【指導の留意点】 ・解決の見通しが立たない児童へペアトークや見通し発言を聞かせ，解決への意欲を失わさせないようにする ・解けそうだなという思いを持たせる
めあて作り	**学習のゴールを明確化・共有化し，自発的な学習を促す活動** Ｔ：「今日のめあてを決めましょう。」みんなが〇〇を解く〇〇を見つけることができる」「みんなが〇〇できるようになる」 【ねらう効果】 ・児童が同じ目的意識を持たせる ・受動的な学びから主体的な学びへの脱却 ・みんなで作り上げる協働的な学びへ 【指導のポイント】 ・明確なゴールの共有化を図る ・どのようになればＯＫなのか，子どもの姿で表す ・指示がなくても主体的に子どもがめあてを書ける

ＵＤ導入時の留意点

①児童の自由な気付きから学んでいく。
②教えたい内容を児童が見つけるように仕組む。（発見させる）
③「分からない」児童へは「分かる」児童が説明させる。(全員が知の魂を大きくできてハッピー)
④全員で解決のため全員発言を目指す。(氏名マグネット)
⑤ペアトークやグループトークを導入し，対話の中で解決。
⑥４５分の中に動く活動を取り入れ，集中力を持続させる。（説明を前で聞く。分かったら座る等。）

「算数科における１０の仕掛け」

①選択肢を作る
②隠す
③間違える
④情報過多にする
⑤情報不足にする
⑥分類する
⑦位置・配置を変える
⑧順序を変える
⑨図や絵に置き換える
⑩仮定する

キーワード

★視覚化
「ひきつける」
・学習意欲が喚起
・能動的になる

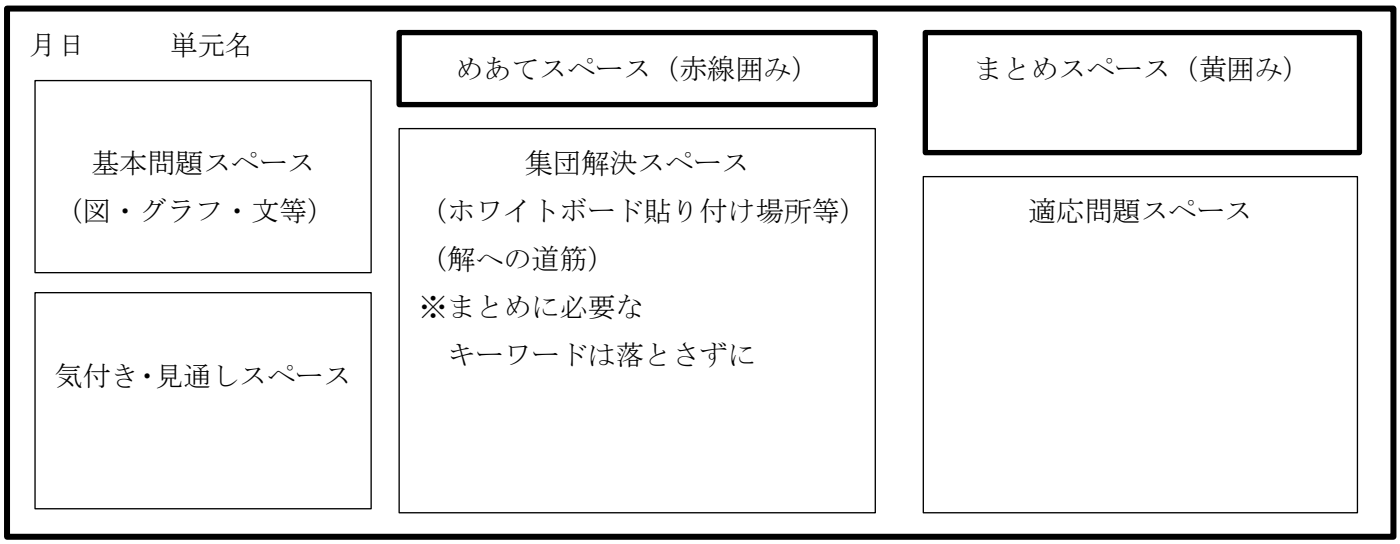
★焦点化
「方向づける」
・やることが明確
・メタ認知できる

★共有化
「そろえる」
・協働して学習

	【指導上の留意点】 ・めあては赤線（学校で統一）で囲み，目立たせる ・子どもがめあてを立てられるのが理想だが，時には教師が部分的にめあてを出し，続きを子どもに言わせるなどしてもよい（新しい知識・技能の場合等） ・各時間を保障する（早く書く訓練は必要）
個の学び	**他の者に頼らず自力で解こうとする活動　深い学び①** 【ねらう効果】 ・ねばり強く解こうとする態度の醸成 ・教える児童の自己有用感の醸成 ・分かりたい思いと分からせたい思いの融合化による協働意識の醸成とコミュニケーション能力の育成 【指導の留意点】 ・机間指導を行い，児童一人一人の学習状況を把握する ・考えが持てない児童への支援の仕方を考えておく（早く解決した児童に教えさせる等） ・一人一人が個で問題が解けるゴールは，「適応問題」時であることを確認しておく。 ・本時の学習状況から，どのような解決方法を考えているか傾向を掴むとともに，グループ・集団解決場面の戦略を立てる ・時間配分を考える（全く解決方法が見つからない児童が多い場合や解決の考え方は分かっているが，作業に手間取っている場合等）
グループでの学び	**少人数グループで解こうとする活動（割愛可）深い学び②** 【ねらう効果】 ・協働的な学びの育成 ・自分の考えに自信を持ち，自己有用感の高揚 ・より良い学びに触れることで，考え方（学び方）の手順を知る 【指導の留意点】 ・他の児童とともに考えることで，ぼんやりした考えが鮮明になったり間違った考えが修正できたり，より良い考えに気付いたりする場にする。（解決のための手順を知る） ・小集団は，はずかしさから解放されやすく，より自分の考えを出しやすい。（言語活動の場） ・日常から相手と共に考える，相手とともに活動する等の良さを自覚させておく ・「相談する」ことは，自発的な学習活動になる。 ・学習は「途中でもＯＫ」を徹底しておく。
全員での学び	**全員が協働して解こうとする活動　深い学び③** 【ねらう効果】 ・協働的な学びの良さを味わい，より深い学びができる ・より良い学びに触れることで，考え方の手順と良さを知ることができる。 ・相手に伝えようとする，相手の話すなかみを聞こうとする言語活動が高まり，コミュニケーション能力が高まる。 【指導の留意点】 ・発表者がグループの場合，全員が出て役割分担をしながら発表する。（説明役，指示棒役，質問受け付け役，書く役，逆質問役等） ・グループ発表の場合，いつも固定した役にせず，リレー説明や役交代をさせる。 ・話し合い途中まででもよいという約束を作っておき，「ここまで考えました。」はＯＫとする。 ・説明ばかりではなく，逆質問をさせることで，聞き手も緊張感を持って聞くし，全員で作り上げる授業となる。 ・席を離れて，黒板の前に集合をして行うこともある。（ ・発表者が，途中行き詰ったら「助けてください。」もありとする。 ・失敗もＯＫの約束を普段から培っておく ・全員に適応問題が解ける自信を持たせる。 ・教師は，「まとめ」の活動の際，児童がまとめを書きやすくなるように「キーワード」や「手順」について，板書したり言葉で表したりする。
学習のま	**全員が知の魂を大きくできてハッピーになるために学習のまとめをする活動** 【ねらう効果】

とめ	・本時の学習のめあてとリンクすることで，学び方の方法を知ることができる。 【指導の留意点】 ・まとめを教師が作るのではなく，児童がみんなで作りだしたという意識を持つようにする。（教師は，児童とともに作り上げるという意識） ・複雑な表現にすることなく簡潔に表すことに心がける。 ・低学年等は，まとめの文章を虫食いにしたりすることで，主体的な学びを保障する。 ・児童だけでは，簡潔でエキスだけのまとめは難しいため，場合によっては教師が誘導することも必要。 ・同傾向のどんな問題でも，解くことができる法則・きまりを見つけたことを表すことが「まとめ」であるとか，全員が簡単に早くできるやり方を表すのが「まとめ」であることを日常的に指導しておく。 ・児童全員が適応問題ができそうだと思えるように，自信を持たせることが大切。
適応問題	**全員が知の魂を大きくできてハッピーになったかを確かめる活動** 【ねらう効果】 ・自分もできる・分かる喜びを味わい，学習意欲をより醸成できる。 ・みんなで作り上げた学びの良さを味わえる。 【指導の留意点】 ・誰もができる適応問題を与え，全員ができる喜びを味わわせるようにする。 ・どうしても解けそうにない者は手を挙げて，ヘルプを頼むのもＯＫとする。 ・全員ができたことをしっかり肯定的に評価してやる。
ふりかえり	**全員が知の魂を大きくできてハッピーになった喜びを味わい，次への意欲を高める活動** 【ねらう効果】 ・学びの良さを味わえる。 ・協働的に学ぶことで，自分の良さやみんなができることの素晴らしさを味わえる。 ・自らの学び方を評価できる。（メタ評価） ・次時への意欲を高めることができる。 【指導の留意点】 ・振返りの視点としては， 「分かった道筋」「もっと考えたいこと」「自分の変容・成長」「友達の考えの良さへの気づき」「勉強の良さ」「生活に活かしたいことや単元のゴールへの展望」等 ・単なる「楽しかった」等の感情的な部分ではなく，「学習内容に関わること」「生徒指導の三機能に関わること（自己決定・共感的人間関係・自己存在感）」について振り返るようにしたい。 ・授業時間が足らない場合や，しっかりふり返らせたい場合，本郷ノートを活用する。

板書の統一化（基本形）



※視覚化・焦点化に板書は大切！